HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	研究室報
Citation	独語独文学科研究年報, 6, 69-72
Issue Date	1980-05
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/25553
Type	other
File Information	6_P69-72.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

研　究　室　報

講　義　題　目（昭和５４年度）

学　　部

独語学概論		塩谷　饒
独文学史概説		青柳謙二
独語学演習	Lyrik	E. Kleeberg
独文学演習	Wiese：Wesen und Geschichte der deutschen "Novelle seit Goethe"（前期） Hauptmann："Bahnwärter Thiel"（後期）	青柳謙二
独文学演習	Büchner："Lenz"　（前期） Realitätsstruktur moderner Erzählungen(後期)	R. Blesch
独語学Ⅱ	Sprachübung	E. Kleeberg
独文学Ⅱ	Keller："Romeo und Julia auf dem Dorfe"(前期) Schiller："Wallenstein"（後期）	R. Blesch

大　学　院

（修士課程）

独語学特殊講義	ドイツ語音韻論（集中・前期） 日独対照文法（集中・後期）	川島淳夫
独文学特殊講義	Meyer："Die Versuchung des Pescara"	新妻篤
独語学演習	Frühneuhochdeutsch "Der Ackermann aus Böhmen"	塩谷　饒
独文学演習	Methodenprobleme der deutschen Literaturwissenschaft	青柳謙二

（博士後期課程）

独語学特殊演習	塩谷　饒
独文学特殊演習	青柳謙二

昭和５４年度　論文題目

卒業論文

福島秀子　H. Eノサックの「弟」

遠藤幹哉　荒野の狼試論

森田一平　liegen と stehen について

修士論文

伊藤智　パウル・ツェラン試論 ―― 非在の情念と詩法 ――

小沢幸夫　ヘルマン・ヘッセに関する一考察
――Narziβ und Goldmund 評釈への試み ――

渡辺千枝子　「緑のハインリッヒ」における"自由"の概念について

北海道大学ドイツ語学・文学研究会会則

1. 本会は北海道大学ドイツ語学・文学研究会と称する。
2. 本会はドイツ語・文学の発展に寄与することを目的とする。
3. 本会は上の目的達成のため下記の事業を行なう。
   1）機関紙「独語独文学科研究年報」を毎年1回発行する。
   2）合評会、研究会、講演会等を随時行なう。
4. 本会員は北海道大学文学部独語・独文学研究室の教官・院生（学生も含む）ならびにその趣旨に賛同する者によって構成される。
5. 本会員は上の活動の遂行のため年額6,０００円（教官は１２,０００円）の会費を支払う。
6. 本会は1名の会長と3名の幹事をおく、幹事は会計1名、編集委員2名とする。
7. 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり3月３１日をもって終わる。
8. 本会の事務所は北海道大学文学部独文学研究室におく。

研　究　室　行　事　記　録

◎ 昭和５４年２月１９日・２０日に、昭和５３年度卒業論文・修士論文発表会が、独語独文学研究室で行なわれた。

◎ 昭和５４年７月１０日に、第５回合評会が、独語独文学研究室で行なわれた。

◎ 昭和５４年は、次の６回の研究会がもたれた。

- ２月２８日　（百年記念会館）
  川　島　淳　夫：「変形の条件について」
- ６月　９　日　（百年記念会館）
  塩　谷　　饒：「日独両語にみられる造語の特色」
- ６月２３日　（百年記念会館）
  田　中　俊　明：「複合語と派生語の記載について
  ――語彙的イディオムに関する一考察――」
- ６月３０日　（独語独文学研究室）
  石　橋　道　大：「ホーフマンスタールの詩を材料にした韻律論入門」
- ９月１３日　（百年記念会館）
  岡　崎　忠　弘：「中高ドイツ語の研究について」
- ９月２２日　（百年記念会館）
  川　島　淳　夫：「日本語生成音韻論」

◎ また、昭和５４年は、次の４回の講演会が、北大文学部および教養部で開かれた。

- ４月　２　日　（文学部第一会議室）
  Dr. Jörg Drews（Bielefeld大学教授）：「Die Entwicklung der deutschen Prosa in den Jahren seit 1969」
- ６月１３日・１４日　（教養部 S-401）
  Dr. Kajo Niggestich（Goethe-Institut）：
  「ドイツ語学習に於けるビデオの利用について」
- ９月１７日　（文学部第一会議室）
  Dr. Dieter Wunderlich（Düsseldorf大学教授）：
  「Modalverbenについて」
- ９月２２日　（文学部第一会議室）
  Dr. Eugenio Coseriu（Tübingen大学教授）：「Über Leistung und Grenzen der Kontrastiven Grammatik」

会　員　名　簿

青柳謙二	植木迪子	佐藤修子	○田中俊明
伊藤　智	梅津　真	佐藤俊一	○藤本純子
伊藤祐紀子	小沢幸夫	◎塩谷　饒	三浦国泰
○石川克知	加藤寛蔵	神　久聡	山田恵子
石橋道大	川島淳夫	瀬川修二	山田貞三
岩井　洋	川東雅樹	高橋吉文	山田善久
○岩田　聡	佐藤　厚	田中　剛	渡辺千枝子

◎は会長　　○は幹事

独語独文学科研究年報　第６号

昭和５５年５月発行

発行者　北海道大学文学部独語独文学講座

編集委員　石川克知　岩田　聡
田中俊明　藤本純子

連絡先　北海道大学文学部独語独文学研究室内

〒０６０　札幌市北区北１０条西７丁目

印刷所　北海道大学生協プリント部